

平成30年度

社会人基礎力白書

大学生の就業力向上のために



公益社団法人 **緑丘会**



国立大学法人 **小樽商科大学**

平成30年度 社会人基礎力白書発刊にあたって
公益社団法人 緑丘会
理事長 島崎 憲明

平素は当法人の活動にご理解、ご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

私どもは内閣府より公益社団法人移行認定を受け、平成24年4月1日付で、公益社団法人緑丘会として第2のスタートを切りました。本年も、公益社団法人の行う公益目的事業として、国立大学法人小樽商科大学のキャリア教育開発部門と連携して、大学生の「社会人基礎力」養成及び「就業力」育成のために、平成30年度版「社会人基礎力白書」を刊行させていただきました。

数年来、新卒者の入社後3年以内の早期離職率が高まっていることが問題視されており、学生と企業の価値観のミスマッチの解消が急務とされております。そのような中、学生の資質・能力に対する社会からの要請や、学生の多様化に伴う卒業後の職業生活などへの支援の必要性が高まっております。

経済産業省では平成18年より「社会人基礎力」の養成を目指した政策が推進されております。又、文部科学省においては、大学などが教育課程の内外を通じて社会的・職業的自立に関する指導などに取り組む体制を整えることについて、平成22年2月に「大学設置基準」が改正され、平成23年4月からすべての大学で取り組むことになり、各大学が教育課程内外にわたり大学生の「就業力」の育成などを目指す取り組みなどを総合的に支援するとしております。

これらの時代の流れを踏まえ、私ども公益社団法人緑丘会は、公益目的事業として、国立大学法人小樽商科大学が推進するキャリア開発教育および就職関連事業を支援しております。取り分け多くの学生が卒業後の人生において、自己実現を図ることのできる豊かな充実した職業生活を送る力である「社会人基礎力」、「就業力」養成の一助となるよう、毎事業年度における「社会人基礎力」の調査結果を纏めた「社会人基礎力白書」の刊行・公開事業を行って参りました。

しかし、近年の労働生産人口の減少等の環境の変化、企業側におけるAI(人工知能)やIOT(モノのインターネット)の導入による生産性向上の変革に適応するため、昨年から社会人基礎力養成白書も改編する運びとなりました。

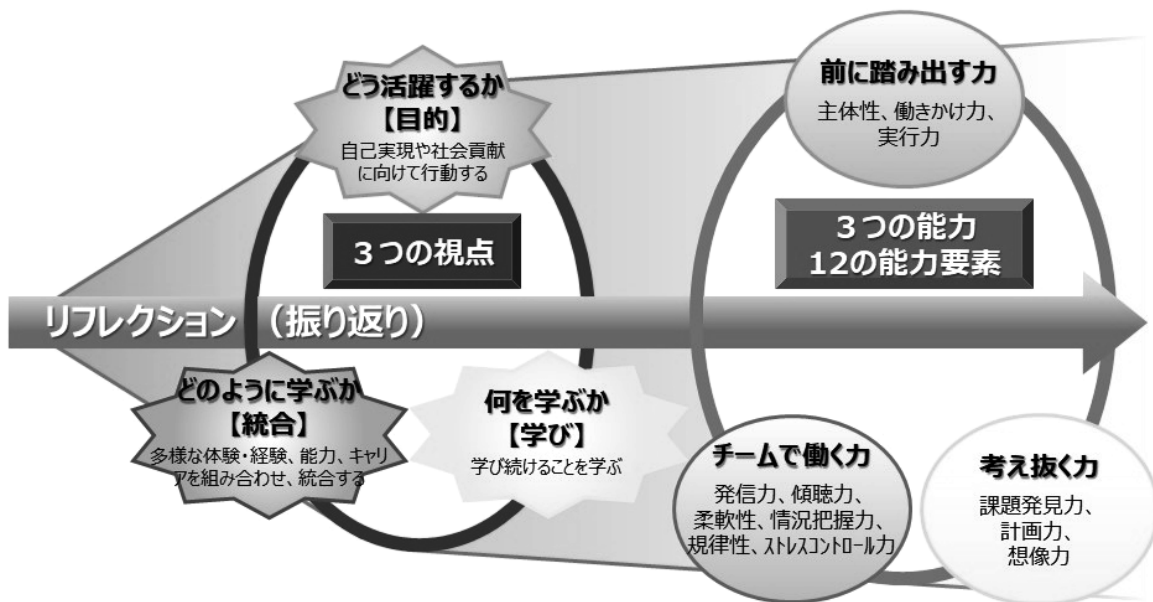
今後とも内容の充実を図って参りますので、広く学生・企業・教育関係者の皆様にご高覧いただき、「社会人基礎力」の一層のご理解と向上に役立てていただければ幸いに存じます。

人生100年 時代の 社会人 基礎力

「社会人基礎力」とは、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）から構成されており、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として、経済産業省が2006年に提唱しました。

「人生100年時代」や「第四次産業革命」の下で、2006年に発表した「社会人基礎力」はむしろその重要性を増しており、有効ですが、「人生100年時代」ならではの切り口・視点が必要となっていました。

こうした状況を踏まえ、平成29年度に開催した「我が国産業における人材力強化に向けた研究会」において、これまで以上に長くなる個人の企業・組織・社会との関わりの中で、ライフステージの各段階で活躍し続けるために求められる力を「人生100年時代の社会人基礎力」と新たに定義しました。社会人基礎力の3つの能力/12の能力要素を内容としつつ、能力を発揮するにあたって、自己を認識してリフレクション（振り返り）しながら、目的、学び、統合のバランスを図ることが、自らキャリアを切りひらいていく上で必要と位置づけられます。



(出典：経済産業省ホームページより)

「平成 30 年度 社会人基礎力白書」に寄せて

国立大学法人小樽商科大学 商学部社会情報学科 准教授
兼グローバル戦略推進センター教育支援部門副部門長
学長特別補佐（アクティブ・ラーニング開発担当）

大津 晶

◎はじめに

公益社団法人緑丘会におかれましては、日頃より母校のキャリア教育ならびに現役学生の就職活動等にたいへん篤いご支援をいただいておりますこと、この場を借りて御礼を申し上げます。

本学のキャリア教育プログラムの中で重要な位置を占める正課科目の一つである「エバーグリーン講座」が平成 29 年に開講 30 周年を迎えました。同年 11 月には「エバーグリーン講座開校 30 周年記念大会」が催され、本年 9 月には 30 周年記念誌を刊行することができました。この記念誌の特集記事には最近 4 年間のエバーグリーン講座の講義録を再編集して採録することでエバーグリーン講座のエッセンスである「小樽商大の DNA」の可視化を試み、幅広い世代の講師それぞれの緑丘での学びと人的ネットワーク、そしてそれらが各々の仕事や人生にもたらした多くの財産を再認識させられることになりました。

緑丘会の公益法人化に伴い平成 25 年に発刊された「社会人基礎力白書」の主旨は「母校の現役学生のキャリア教育支援を通じた社会への公益還元」です。そこで、今年度の社会人基礎力白書から特集記事はその構成をリニューアルし、前年のエバーグリーン講座の講義録を抜粋して掲載することとし、本講座を通じて本学卒業生から受講生に伝えられた「仕事の本質」を記録するとともに、それらをより広く公開して次世代を担う若者に届けることにしました。

各講義録は紙幅の制約からすべての講義内容を掲載することができず、卒業後のキャリアや仕事の現場で得た普遍的な知見に焦点を絞り、現役時代のエピソードなどは残念ながら割愛せざるをえませんでした。全文はエバーグリーン講座コミュニケーションサイト(www.facebook.com/oucevergreen)にて公開しておりますのでこちらもご覧いただければなお幸いです。

「CFO（最高財務責任者）の仕事 ～経理キャリアの築き方～」

阿部 洋介氏（平成 12 年商学科卒／パイオニア DJ 株式会社 管理統括グループエグゼクティブディレクター）

○キャリアアップを動機づけた最初の職場

今日は自分の体験を通して、「CFO の役割と責任」について話します。CFO とは、chief financial officer、最高財務責任者のことです。日本ではベテランの仕事と思われがちですが、アメリカのベンチャーでは若手が担うことも珍しくはない分野です。学生時代、私は会計学をなかば義務的に、ビジネス社会のコミュニケーションツールとして勉強していました。しかし社会の一線に出てキャリアを積んでいく中で、それがどんどん面白いものだと感じるようになりました。

はじめにまず強調したいのは、経理の仕事はとてもやりがいのあるものなので、皆さんの進路の選択肢のひとつに加えてほしい、ということ。またそのためにも、学生時代に英語だけはしっかり勉強しましょう。英語が使えるか使えないかの違いで、経理の仕事でさえ進路の選択肢から収入まで、まったくちがってきます。

卒業後最初に入社した企業は日立製作所です。その後レッドハット、ウルトジャパン、と転職し、現在は

リーチローカルジャパンサービス (Reach Local Japan Services) というインターネット広告の日本法人の立ち上げにヘッドハンティングされました。肩書きは、執行役員・管理本部長。この会社は、Google などの検索エンジンが提供する広告を検索に応じて掲載するサービス (リスティング広告) を行います。米国本社は NASDAQ に上場して急成長を遂げた企業で、日本でも、Google のグローバルプラチナ SME パートナーとして Google といっしょに日本の中小企業をお客様として開拓しました。SME とは中小企業 (small medium-size enterprise) のことで、日本では、唯一の海外市場を含めた SME パートナーでした。

Google のビジネスの基盤は広告媒体としてあるわけですが、リーチローカルジャパンサービスは日本のすみずみの中小企業の広告をまとめて Google のシステムにデータを流し込みます。私たちは広告の費用対効果を見える化する独自のシステムなどを駆使して、出稿クライアントの信頼を得ていきました。Google にとっても貢献度は大きく、信頼されるパートナーでした。なにしろたくさんの中企業の広告を集めることで、単独では断トツに大きなクライアントである外資系大手通販よりもひと桁大きな実績を上げていたのです。私たちは Google から非常に大切にされていました。

ここではまず、ERP や経理のシステム構築はもちろん勤怠管理のシステムなどまで、さまざまな仕組みづくりをゼロから行いました。また、税法で許されている繰越欠損金のルールを使うために黒字体質と赤字体質の兄弟会社を将来の節税効果を狙って合併させる、といった仕事もしました。

ジャパンの業績は順調でしたが、米国本社の収益が悪化してしまい、ある日突然 USA Today というアメリカの全国紙を発刊している巨大メディア企業に身売りしてしまいました。外資系企業ではそれほど珍しいことではありませんが、いろんなことがありました。ここにも 4 年あまりいて、自分なりに納得する成果をあげることができたので、次のキャリアを求めました。

そして、米国の大手投資ファンドである KKR (コールバーグ・クラビス・ロバーツ) がパイオニア DJ (株) を 2015 年春に買収して、この会社のマネージメントを担うために、社長と私が KKR を経由して昨年暮れに送られました。

○CFO (最高財務責任者) の役割と責任とは？

現在の勤め先に移る前に 4 社の会社を経験しました。しかし私は単なるジョブホッパーではありませんから、転社にはいずれも自分なりに納得のいく成果とタイミングが欠かせませんでした。それぞれで得たものや、実績、それらに商大時代に学んだことがどのように役だったか、主なものを整理してみます (表を示す)。

日立製作所ではまず決算や原価計算、会計監査や税務調査への対応を経験して、DD (Due Diligence) や JV 設立に取り組みました。これらの仕事には、原価計算や管理会計、簿記、財務会計といった商大で学んだ基礎が直結していました。

レッドハットでは、自身最初の外資系企業なので米国会計基準や SOX 法への対応、国際税務やベンチャー経営などが学べて、会社の黒字転換に貢献することもできました。商大で身につけた英語や IT 業界でしたので社会情報概論といった基礎が役立ちました。

リーマンショックに直面したウルトジャパンでは、国際財務報告基準や DES (Debt・Equity・Swap) 実施から法務や M&A、リストラなどに取り組みました。人員削減を伴う事業再構築は痛みと引き替えでしたが、日本進出 20 年ではじめて黒字を計上しました。商大でドイツ語やドイツ文学を学んでいたことが、ドイツ本社やドイツ人社長とコミュニケーションする上で思わぬ形で役立ちました。学生時代、自分がドイツ企業の日本法人で働くなんで、想像もできませんでしたけれど。

リーチローカルでは、事業の立ち上げから経営全般のスキルを高めて、日本進出 3 年で黒字にしました。商大で学んだ民法や商法の基礎も力になったと思います。

これらの経験から私が得たものを大きく分けると、「経理畑一般で身につく知識」と、「新たなシステムの